

事務事業 No./名 称	☐ サービス部門 総務-09 ☒ 支 援 部 門 市史編纂事業						
主管課	総務課	関連課	中央図書館				
分野名	歴史環境						
目標 (目標値)	歴史的公文書等の適切な保存						
人口等の データ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備 考		
	人 口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世 帯 数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
	事業の対象者数						
運営資源 状 況	決算値(千円)	813 千円	1,083 千円	1,086 千円			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	813 千円	1,083 千円	1,086 千円			
	人員配置数	0.2人	0.2人	0.2人			
	人 件 費(千円)	1,808 千円	1,833 千円	1,810 千円			
	協 働 の パートナー						
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	2,621 千円	2,916 千円	2,896 千円			
	市民1人当 りの経費(円)	15 円	17 円	16 円			
	対象者1人 当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名						
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
歴史公文書等の整理保存事業の達成率	△	目標値					
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値					

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。		②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。	
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。		④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。	
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)		⇒ 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
市史編纂事業	813千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 △ ④公平性 —	⇒ ■A □B □C □D □E			
	事業の概要	市史の編さんに向け、歴史的公文書等の整理・保存及び散逸防止を行った。				
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E			
	事業の概要					
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E			
	事業の概要					
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E			
	事業の概要					
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒ □A □B □C □D □E			
	事業の概要					

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)						
H22年度の課題	歴史公文書等の整理・保存及び散逸防止に係る事業の完全実施に向けて組織体制の整備が課題となる。					
課題解決のための取組	中央図書館と連携し、廃棄行政文書の中から歴史公文書等の選別作業の試行を開始しており、当該事業の完全実施に向けての組織体制の整備について協議を進めている。					
未解決の課題	上記課題を解決するために、当該事務事業の移管を含めた具体的な協議が必要である。					
今後の方針	当該事務事業について専門性を有する組織に人材と経費を集中し、当該事務事業を移管することにより、歴史公文書等の適切な管理体制を整える。					
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒	A	※ ☐ 事業完了	課長名	総務課課長代理 今井 伸行

個別事業の概要

(単位:千円)

小事業名		ザイムスコード	個別事業名	22年度予算	22年度決算値	個別事業の評価結果	
市史編纂事業	主な個別事業	592	事務補助嘱託員報酬	1,008	756	■適切	□見直し余地あり
			事務補助嘱託員費用弁償	159	47	■適切	□見直し余地あり
			神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会負担金	10	10	■適切	□見直し余地あり
	主な個別事業					□適切	□見直し余地あり
	主な個別事業					□適切	□見直し余地あり
	主な個別事業					□適切	□見直し余地あり
	主な個別事業					□適切	□見直し余地あり
	主な個別事業					□適切	□見直し余地あり